みんなのひろば

視点

利用しやすい体制急務

群馬の医療と言語・文化を考える会副代表
原（はら）　美雪（みゆき）　前橋市三俣町

前回「動脈」は英語で何と言いますかとお尋ねしました。当然のことですが医学用語は学ばなければ身につきません。コミュニティーで活動する場合にも、医療通訳者は命や健康にかかわる医療の場で、時には仕事を休んでも対応するという活動の重みを感じています。日頃から医学や言語に加えて医療通訳者の倫理や適切な対応を学ぶ必要もあり、専門職としての覚悟が必要です。診療の場を混乱させることなく臨機応変に文化や言語の橋渡しをするため、経験や研修も大切です。

しかしながら、社会的認知度はまだ低く、医療通訳を業とする方とは比較にならない待遇で活動をしています。

当会は、群馬県共同募金会、中央ろうきんから助成金をいただき①医療通訳制度普及のためのシンポジウムや多職種連携講習会の開催②専門職としての医療通訳者が群馬県で育つことを目指したコミュニティー通訳者養成講習会開催③言語グループの学習体制整備支援ーをしています。

さらに、昨年度は患者や医療機関の皆さんが医療通訳を利用しやすい環境をつくるため、医療通訳者の試用無料派遣を行いました。医療通訳者が社会で必要とされる件数やその現状を把握するためでした。昨年4月から本年2月までに180件の依頼を受けました。高崎、太田、前橋、伊勢崎、藤岡、桐生、足利などの医療機関において、中国語、スペイン語、ポルトガル語、英語、タガログ語、ネパール語、インドネシア語、フランス語、ロシア語など多様な言語で対応しました。

診療科は整形外科、産婦人科、内科、眼科、歯科、精神科など多岐にわたり、手術や入院になった方もいました。

派遣を通して①病院をいくつも回り、ようやく診断・治療につながったケース②難病や悪性腫瘍の患者など今後通訳費用の負担軽減が検討される必要があると思われたケース③一日がかりや夜間から夜中にわたるケースなど患者にも通訳者にも相当かつ適切な配慮が必要とされる現場を確認することができました。

外国の方の命や健康にかかわるコミュニティーの医療通訳の普及には、保険など解決すべき課題があります。社会の制度として県や市町村など行政、病院・診療所、国際交流協会、外国人支援団体、企業、市民が協力して体制を作る必要があります。関係方面が同じ机に座り、多角的に協議をすることが不可欠です。

厚労省や観光庁、経産省が進める病院の外国人受け入れ体制整備事業を地域につなげることも可能でしょう。

日本の人口減を背景に、外国人労働者の受け入れが進む中、現状や今後の推移も見極めながら、教育・医療等福祉予算と税収、医療通訳利用と医療経済など問題の本質を見極めながら、今地域で何をするべきかという議論が必要だと思います。

【略歴】東京都出身。東京外語大卒。外務省で在インドネシア大使館などに勤務。2013年に群馬の医療と言語・文化を考える会を立ち上げ、医療通訳の普及に尽力。

医療通訳の普及

オピニオン21

小声で歌う母の姿

宮原　和泉（藤岡市・83）

台湾花蓮の小学校2年生のとき、第2次世界大戦が始まりました。

翌年の夏、珍しく早く帰宅した父が出窓に腰掛けて、庭のガジュマルを見ながら小声でつぶやくように歌っていました。

〽ああ　あの顔で
　あの声で

父が歌っている姿を見たことがない私は、珍しい光景にびっくりしました。それから、『暁に祈る』という曲を時々歌うのを聞いて、私や2人の弟も一緒に口ずさむようになりました。母はなぜか複雑な表情をして黙っていました。その頃、父の知人が出征した、と母から聞かされたのは、ずいぶん後でした。

翌年の初夏、父は3カ月の教育召集から現役に切り替えられ、南方に赴くことになり、私たち親子は台北へ別れに行きました。私は「ちぎれるほどに振った旗」と歌詞の続きを心でつぶやき、営門をくぐる父の背を見送りました。

1946（昭和21）年4月、日本に引き揚げてきました。翌月、父がニューギニアで戦死したという公報が届き、遺骨が帰ってきました。初七日の晩。目を覚ますと、位牌の前に座った母が何かをつぶやいていました。近づくと「遠い雲間にまた浮かぶ」と小声で歌っていたのです。私はその場を離れ、そっと布団に潜り込みました。

軽妙なMCを楽しんでいると、「1曲だけリクエストしてください。全部覚えているから一番好きな曲をどうぞ」。語りかける徳永さんの高い声に、会場中がリクエストで沸き上がる。少し遅れて私も叫びました。「輝きながら!!」

「『輝きながら』か。CMソングだったな」。徳永さんはつぶやいて、歌ってくれました。少しハスキーになった大人の声で。メロディーが中空に消えていくと、「あの頃は、少年の声だったな」。徳永さんは締めくくりました。とてもすてきな、大好きな思い出の曲です。

ひろば

テーマ「思い出の一曲」PART2

河内　実幸（太田）

大人も『輝きながら』

下田　美知子（前橋市・56）

徳永英明さんの『輝きながら』は、青春時代の真っただ中にいる私の耳に鮮やかに響いたCMソングでした。大ファンになって、テレビの音楽番組にかじりついていました。

透き通った伸びやかな声は心地よく、カセットテープに録音して夢中になって聴きました。引っ込み思案だったので、家にいましたが。

大人になって、前橋市の県民会館（当時）で開かれた徳永英明コンサートに行きました。2階席1列目の中央からオペラグラスで見詰めました。

『モルダウ』歌い優勝

長山　恵子（太田市・58）

最初に浮かんだのは『モルダウの流れ』です。チェコの作曲家、スメタナの曲です。44年前、下仁田東中3年時に校内合唱コンクールで歌った曲です。難しい曲でしたが、一生懸命皆で練習して優勝できました。1、2年生でも私のクラスが優勝した記憶があります。

小さい頃から歌が好きで、小学生なのにムード歌謡をオルガンで弾いたりしていました。昔のことはよく覚えていませんが、当時はやっていた曲を聴くと、昔の光景を思い出して懐かしい気持ちになります。

昔の歌謡曲が放送される番組も楽しみです。好きだった歌はよく覚えていて、何年たっても歌えるのが不思議です。合唱コンクールで『モルダウの流れ』を一緒に歌った同級生の顔も、うっすら浮かんできます。

父の転勤で40年前に引っ越して以来、同級生とは一度も会っていません。投稿文を読んでもらい、少しでも私のことを思い出してもらえたら、うれしいです。

不帰の父と足尾の劇場

信沢　勝江（藤岡市・73）

〽青い目をしたお人形は　アメリカ生まれのセルロイド

童謡『青い目の人形』は、1921（大正10）年に野口雨情が作詞、本居長世が作曲しました。

この歌を聴くと、生まれ故郷の栃木県の旧足尾町を思い出します。なぜなのか。母の生前、そのことを聞いたことがあります。

足尾町にあった演芸をみせる小屋のような所で、子どもの歌手が歌ったそうです。歌詞の意味も分かるはずはないし、マイナーなメロディーが琴線に触れたのでしょう。当時3、4歳だった私は泣いたそうです。後に、その小屋は「直利座」と分かりました。

青い目の人形の歌とともに思い出す記憶の中に父の姿はありません。なぜなら、生まれて間もない私と母を残して戦地へ赴いた父は二度と足尾の地を踏むことなく、不帰の客となったからです。

ふるさとを思うとき、渡良瀬川の清流とともに、あのメロディーが浮かびます。

父をしのんで歌う

武部　耕平（富岡市・62）

父が1918（大正7）年、母は25（同14）年生まれ。人生で一番楽しい青春時代を戦中に過ごした世代である。父の兄3人は戦死。自らも6年の兵隊生活を送り、最後は宮古島で虜囚になった。

母は中国から引き揚げて頼る親戚もない悲惨な暮らしだった。当時の様子を話すようになったのは、私が独り立ちしてから。つらい話を聞かせたくなかったのだろう。

幼い頃、私は極端な人見知りで、吃音がひどく病院に通っていた。スプーンを舌に押し付けられた記憶がある。その治療のためか、歌を歌わされた。『ゴンドラの唄』と『カチューシャの唄』。大正時代の名曲である。3歳児がそんな歌を歌うから驚かれる。人が訪ねてくると母のオルガン伴奏で歌う。何度歌わされただろう。だから、今でも最後まで歌える。

79年に母は亡くなった。父は、母と戦友を弔うため宮古島に観音碑を建てた。父が亡くなる10年前、最初で最後の2人の旅で宮古島へ行った。「この観音碑を君に任せたい。そして戦争の愚かさを伝えてもらいたい」と言った。その約束を守るため、島に行こう。東シナ海を一望できる岬の観音碑の前で、父に『ゴンドラの唄』、母に『カチューシャの唄』を歌って2人をしのびたい。

上毛川柳

田中　寿々夢選

桜散り春の日長をもてあまし　桜井　友吉（上　野）
お花見をよそに田植えの早場米　金田　由子（前　橋）
千本の桜の下で世を憂い　簗瀬みちよ（高　崎）
辞任せず嵐去るのをじっと待つ　石原　一鉄（伊勢崎）
国境の杭の向こうも春を待つ　原　美子（高　崎）
風雪に耐えているのは庶民です　田口　基（富　岡）

募集要項　はがき、FAX、Eメールで、3句まで応募できます。はがきは裏面に作品と住所、氏名を記入してください。応募先は、〒371－8666　前橋市古市町1の50の21　上毛新聞社編集局「川柳」係。FAX番号は027・251・4334。メールはhiroba@jomo-news.co.jpへ。

2世易八大のきょうの運勢

23日（大安）24日（赤口）25日（先勝）26日（仏滅）27日（大安）28日（赤口）29日（先勝）

	吉数	吉色	方位	健康	金銭	異性
1月 過ぎたことは忘れる。明日に備えて休養を	7	銀	西南	▲	○	○
2月 大当たりの春。金運急上昇の裏に愛の支え	8	白	西	△	◎	○
3月 人を恨まず、過去を悔やまず、淡々と生活	3	朱	南東	○	○	▲
4月 自然体で過ごすべし。新しい出会いの予感	1	青	東北	△	△	○
5月 フル回転で。今日の活躍は夢実現の第一歩	4	赤	南	◎	○	△
6月 出だしよく快調。ただし浪費と賭け事禁止	5	金	西北	○	▲	△
7月 小事に拘泥禁物。ドンと構えて揺るがずに	3	桃	東南	▲	○	○
8月 人間関係は順調。心も落ち着き取り戻し吉	7	黄	南西	△	△	○
9月 うまくバランスの取れた好日。整理整頓を	6	茶	北東	△	○	△
10月 愛はきちんと言葉で表現。幸福感で充満す	2	緑	東	○	△	◎
11月 冗談のつもりが相手を傷つける。言葉注意	10	紫	北西	○	○	▲
12月 花に浮かれて出費増。使い過ぎぬよう制御	9	黒	北	○	▲	○

（生まれ月）　（◎最良　○良　△普通　▲注意）

ホームページでも見られます。
アドレスは　http://www.jomo-news.co.jp/

応募要項

【ひろば】　原稿用紙に500字以内。住所、氏名、年齢、電話番号を明記。添削あり。匿名、筆名、二重投稿、採否の問い合わせ不可。返却なし。

【金曜日付のテーマ】　金曜日付「テーマ投稿」のテーマは次の通りです。28日付は「**大型連休**」、5月5日付は「**サイクリング**」、12日付は「**いつか、あの街へ**」です。掲載週の月曜日必着で送ってください。

【U22私の声】　小中高校生・専門学校生・大学生を中心に若者の投稿を掲載します▷住所（市町村名、または学校名）・氏名・年齢▷テーマ自由▷500字以内

◇**応募先**◇〒371－8666（個別郵便番号のため住所不要）上毛新聞社「ひろばワイド投稿係」あてに「ひろば」「U22」「新婚」「金婚」「ウチの子」「同窓万歳」「発表HAPPY」の種別を付記して郵送かファクス（027・251・4334）、メール（hiroba@jomo-news.co.jp）で。いずれも投稿者の連絡先（住所・氏名・年齢・電話番号）を必ず記入してください。添削あり。掲載者には記念品。写真は原則返却しません。

ぐんまちゃんの掲示板

県ホームページ http://www.pref.gunma.jp/　群馬県広報課 ☎027・223・1111（代表）

いきいきGカンパニー認証制度

この制度は　育児・介護休業制度の利用や職場における女性の活躍、「ワーク・ライフ・バランス」などを推進し、男性・女性を問わず、全ての労働者にとって働きやすい職場環境づくりに取り組む企業を「群馬県いきいきGカンパニー」に認証するものです

対象　県内に本社または事業所があり、県内で事業活動をする企業や法人、団体

認証基準　育児休業制度などによる仕事と育児の両立の支援や、職場における女性の登用・活躍推進に関する取り組みについて宣言することなど

認証を受けると　認証書が交付され、次のような支援が受けられます
○県ホームページなどでの企業紹介
○講演会などの情報提供
○その他、県が必要と認めた支援

申請期間　随時

申請方法　所定の申請用紙

申請用紙入手先　県ホームページ（https://www.pref.gunma.jp/06/g2200269.html）

問い合わせ先　県庁労働政策課（☎027・226・3404　FAX027・223・7566）

春の緑化行事

【緑の募金推進中央キャンペーン】

期日　4月29日（土）

開始時刻　午前11時、午後1時

会場　県立敷島公園（前橋市敷島町）

内容　「敷島公園まつり」会場で、ブルーベリーなどの苗木を配布します

対象　「緑の募金」に協力した人

【みどりの日記念　苗木配布会】

期日　5月3日（水）

開始時刻　午前11時

会場　前橋市中央商店街周辺（前橋市千代田町）

内容　ブルーベリーなどの苗木の配布

対象　「緑の募金」に協力した人

【県植樹祭】

期日　5月20日（土）

時間　午前9時30分～11時30分

会場　神流川公園（神流町万場）

内容　記念式典や記念植樹など

費用　無料

【共通事項】

申し込み方法　当日、直接会場にお越しください

その他　期間中は、この他にも県内各地域で緑化行事が開催されます。詳しくは、市役所・町村役場、県環境森林事務所、県森林事務所にお問い合わせください

問い合わせ先　県庁緑化推進課（☎027・226・3272　FAX027・223・0154）

馬事公苑「ドキドキ　わくわく　体験乗馬教室」（6月）

日程　6月1日（木）～7月31日（月）の希望する4回
※火曜日を除く

開始時刻　午前9時、10時、11時、午後1時、2時、3時

会場　県馬事公苑（前橋市富士見町）

内容　1回当たり45分間の乗馬

対象　県内在住で、当苑を初めて利用する、小学3年生から高校生までの乗馬初心者

費用　1万円（受講料、保険料など）

申込期間　4月24日（月）～6月30日（金）

申し込み方法　電話予約後、所定の申込用紙

申し込み・問い合わせ先　県馬事公苑（☎027・288・7002　FAX027・288・8832）

自然史博物館企画展「尾瀬を科学する」

会期　5月14日（日）まで
※月曜日（5月1日を除く）は休館

時間　午前9時30分～午後5時（入館は4時30分まで）

会場　県立自然史博物館（富岡市上黒岩）

内容　尾瀬では、現在も調査研究が続けられています。尾瀬の成り立ちや学術的な価値などについて展示します

観覧料　一般＝610円、大学・高校生＝300円、中学生以下＝無料
※障害者手帳などをお持ちの方とその介護者（1人）は無料です。証明できるものをお持ちください

問い合わせ先　県立自然史博物館（☎0274・60・1200　FAX0274・60・1250）

初心運転者の交通事故防止

群馬県は、普通免許を取得して一年以内の初心運転者が加害者となる交通人身事故の割合が、全国1位です。

初心運転者の皆さんへ
○交差点では、停止線直前でしっかり止まり、交差道路の安全確認や歩行者、自転車などに対する安全確認を徹底しましょう
○追突事故を起こさないために、運転中は、前方・周囲の状況の安全確認と運転操作に集中し、脇見運転はやめましょう
○走行中は制限速度を守り、前車との車間距離を十分あけて走行しましょう
○運転中に携帯電話やスマートフォンなどで通話したり、表示された画像を見たりすることは大変危険なので、絶対にやめましょう

ベテランドライバーの人へ
○初心者マークを掲示した車に、優しさと思いやりのある運転を実践し、初心運転者の模範となる運転を心掛けましょう

問い合わせ先　県警察本部交通企画課（☎027・243・0110内線5042　FAX027・224・6655）

ぐんまちゃん公式フェイスブック発信中！！
群馬県のマスコット「ぐんまちゃん」の活動報告や、さまざまなお知らせなどを発信しています
URL http://www.pref.gunma.jp/01/b0100113.html
県庁広報課　☎027-226-2315　FAX 027-243-3600

雨上がりの川　55

森沢　明夫・作
オカヤイヅミ・画

第一章　川合淳（55）

靴を履き直して玄関からふたたび出ていこうとする杏子の手首を、俺はつかんだ。

「いったい何なんだよ、根菜類が駄目って。どういうことだよ」

杏子は、動きを止めて俺を見た。

そのとき俺は、思わず、ごくり、と唾を飲み込んだ。俺を見る杏子の目が、あの乾いた洞穴のような目だったのだ。

「え……、杏子？」

俺はじわじわと握力を弱めていき、杏子の手首を放した。

すると「お芋はね」と、杏子が静かにしゃべりだした。「身体をあったためる野菜なの。今週はずっと気温が高めだったから、地下じゃなくて地上の部分を食べる野菜で、身体を冷やしてあげる方がいいの」

なんだか、思いがけずまともな答えが返ってきて、俺は少し呆然としてしまった。

「淳ちゃん、食べ物には陰のものと陽のものがあるの、知ってるよね？」

「まあ、聞いたことは、あるけど――」

でも、結婚してからこれまで、杏子は、そんなことを考えて料理の献立を作ったりはしなかったはずだ。

「ビールなら、地上部に生えている麦とホップが原料だから大丈夫なの。でも、芋は地下だから駄目ってこと」

焦点の定まらないような杏子の目が、俺を見つめてくる。

「そうか。じゃあ、俺、今日は休肝日にするよ。芋焼酎は飲まないから。だから、買いにいかなくていいよ」

「本当？」

「うん」

「よかった……」

杏子は、心の底から安堵しました、という顔をしたけれど、この一連の会話はあまりにも不自然だった。食べ物の陰と陽だなんて、そんなものは、たまたま思いつきを口にしただけに違いない。そう確信していた俺だが、しかし、いまはこれ以上、その話については触れずにおくことにした。

まずは、しっかりと杏子の外堀を埋めておくべきだろう。

紫音について問い詰めるのは、その後でいい。